

国語挨拶を完全無視

ンダ冷戦

全内幕

中国も調子に乗り始めた

韓国の尹炳世外相

- ▶ 日韓同じホテル宿泊で韓国SPは**超厳戒態勢**
- ▶ 朝食会場で日本側の**握手を嫌がった** 韓国外相
- ▶ **慰安婦の家** 安倍夫人を**強制連行、計画!?**
- ▶ **南京大虐殺妄言** 習近平に引きずられる朴槿恵
- ▶ 来年8月 戦後70年 **安倍談話**で河野談話潰し



今日の事態を招いた元凶

「バククネ テトンニョン
ニムル マンナソ パンガ
ブスムニダ」

ハーグにある駐オランダ
米国外使公邸で、三月二十
五日夜に行われた日米韓首
脳会談。会場では、オバマ
米大統領を中心に、向かっ
て左に朴槿恵大統領、右に
安倍晋三首相が陣取った。

冒頭、安倍首相は「朴槿
恵大統領、お会いできて嬉
しいです」と韓国語でにこ
やかに語りかけたが、朴大
統領は硬い表情でうつむい
たまま、安倍首相のほうを
見ようとしなかった。

安倍首相夫人の昭恵氏が
語る。

「あの韓国語での挨拶は、
私は（事前には）聞いてい
なかったの、向こうに行
ってから考えたんじゃない
でしょうか。（出発前から）
まったく緊張している様子
はありませんでした。（帰
国後）『意外と韓国語の発
音良かったよ』と伝えま
した。私は韓国語を勉強し
ていたの、少しは分かる

んです。ちゃんと通じる発
音だったと思いますよ」
現地取材した記者の証
言も、それを裏付ける。

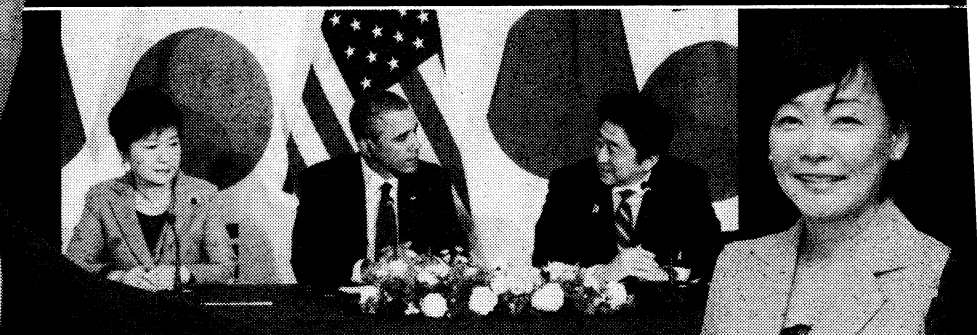
「三者会談前日、核セキユ
リティ・サミットに出席す
る首脳たちが一堂に会した
際にも、安倍首相は朴大統
領を見つけてにこやかに挨
拶していました。当日の韓
国語での挨拶も、安倍首相
がその日に思い付き、韓国
語通訳に発音をチェックし
てもらい、練習を重ねて、
実行したんです」

一方の韓国サイドには不
穏な雰囲気漂っていた。
三者会談の前夜、朴大統領
はオランダ国王主催の晩き
ん会を体調不良で欠席。翌
日の会談キャンセルもあり
得るのではないかと囁かれ
たが、ホテルでは早くもこ
んな日韓冷戦が始まってい
た。外務省関係者が明かす。
「今回、日本チームが宿泊
したホテルは、クラウンプ
ラザ・デンハーグ・プロム
ナードの本館でした。実は
韓国チームも、隣接する同

日米韓首脳会談で朴槿恵大統領が見せた狭量
な態度には、呆れ返るしかなかった。安倍政
権発足後、初めての公式会談だったが、ここ

朴槿恵は安倍首相の韓

日韓オラ



韓国語で語りかけたが……

夫の代わりに謝罪させられる？

ホテルの新館に泊っていたのです。安倍首相が本館五階、朴大統領は新館六階とお互い最上階に泊っていました。二つの建物はコリドー（回廊）でつながっています。韓国側SPは、コリドーを渡って朴大統領のフロアに部外者が入ってこないかと厳重に目を光らせており、物々しい雰囲気でした。日本チームの一部は新館に部屋を割り振られていたのですが、コリドーを渡ろうとすると止められるほどの超警戒態勢でした」

さらに翌朝には、こんなシーンも目撃されていた。「朝食会場となる食堂は、新館の一階でした。三者会談当日の朝、日韓双方の事務方が食堂で一緒になったのですが、日本団の一人が、旧知の間柄の尹炳世外相に歩み寄って手を差しだし、握手を求めました。さすがに尹外相も拒みはしませんでした。その顔は嫌そうにこわばり、さっさと自分の席に戻れと言わんばかりの態度でした」（同前）

その夜、三者会談の場に現れた朴大統領は顔色が真

に至るまでには水面下で激しい駆け引きが繰り広げられていた。アメリカや中国の思惑も絡んだ「日韓冷戦」の内幕をレポートする。

つ青で、具合の悪そうな気配を漂わせていたという。

「安倍首相とにこやかに握手でもしたら、韓国国内で何を言われるだろうか」というプレッシャーも体調に影響したのではないのでしょうか」（前出・記者）

さらに、こんな場外乱闘も起きていた。

「三者会談の会場に各国プレスが入る際のことです。韓国メディアは行儀が悪

く、周囲を押ししたりしながらとにかく前に走ろうとする。欧米メディアから『押すな』『走るな』と怒声が飛びました。韓国メディアは日本メディアを睨み付け、なぜかこちらの写真をやらと撮るんです。後に報道をチェックして、気に入らないことを報じている記者がいたら、ネットで攻撃の材料にでもするつもりだったのでしょうか」（同前）

河野談話と教科書問題で配慮

を褒められたよ」

他方、安倍首相は終始意気軒昂だった。三者会談翌日、政府専用機で羽田空港に到着したのは夜七時半。その足で赤坂の個室しゃぶしゃぶ店「瓢箪」に直行し、自らが所属する派閥、清和会の懇談に顔を出したのだ。

「あの韓国語の挨拶は、当日考えついて、即興でやることにしたんだ」

「尹外相からも、ちゃんと全部聞き取れた、と韓国語

を褒められたよ」

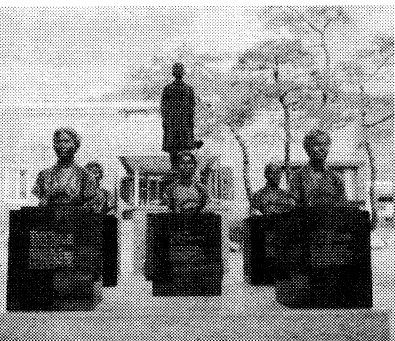
こう語っては京風出汁のしゃぶしゃぶに箸を伸ばし、ビールで喉を潤した後は、好物の赤ワインに切り替えるほど上機嫌だった。出席者が明かす。

「総理にしてみれば、相手国の言葉で声をかけたこと



冒頭では握手する場面も

ソウル近郊にある「ナムムの家」



で、こちらの度量を示すことができた、という手ごたえがあったのでしよう。オバマ大統領もあの光景を見れば、どちらが大人の外交を展開していて、どちらが狭量で子供じみた態度なのか、よく分かったでしよう」

そもそも、日米韓首脳会談の実現までには、紆余曲折があった。三月に入り、安倍政権は「二つの布石」を打っている。その一つが「河野談話」だ。

三月十四日の参院予算委員会。トップバッターで質問に立った自民党の有村治子氏に答弁する形で、安倍首相は「安倍内閣で河野談話を見直すことは考えていない」と明言したのだ。首相側近が解説する。

「三月十二日に、斎木昭隆

外務次官が訪韓して三者会谈実現に向けて交渉、翌十三日に総理に状況を報告しています。韓国側から出された要求の一つは、『河野談話の継承を、首脳会談の場で明言せよ』でした。無論、そんな約束前提の会談などできません。ただ翌日がテレビ中継のある参院予算委員会だったので、これを利用することにした。有村氏に質問を仕込み、答弁を用意した上で、アメリカに対しては、『日本は韓国の意向を受けて、こういう配慮をします』と伝え、韓国側に対して、『今日のテレビ中継を見ておいてほしい』と伝えたのです」

もうひとつの布石が「教科書問題」だった。政治部デスクが解説する。

「小学校の教科書の検定結果公表は、当初、会談直後の三月二十六日に予定されていましたが、文科省記者クラブへの事前説明も、三月中旬には終わっていた。ところが、急きょ官邸サイドからの要請で文科省に『待った』がかり、発表が四月四日に延期されたのです」

小学校の社会科教科書に竹島の領土問題に関して明確に表記されている、というニュースが日米韓首脳会談直後に流れれば、韓国側が即座に猛反発するのは火を見るより明らかだ。

「文科省は、表向きは、検定調査審議会委員の日程上の問題などと説明していますが、官邸が政治的配慮のカードとして使ったのは間違いないですね」(同前)

教科書検定に詳しい高嶋伸欣・琉球大名誉教授はこう語る。

「本来検定は年度内にやら

昭恵夫人は「日程的に無理」

一方で韓国側にも動きがあった。日米韓首脳会談に向けた最終調整が行われている最中の三月十七日昼、ソウルで行われたとある会合で、昭恵夫人が粗上に乗せられていたのだ。

会合の出席者は外務省の山本恭司地域政策課長とその部下、駐韓日本大使館の長尾成敏参事官と女性通訳、さらに日本の市民団体の活動家、米国の活動家、

ねばならないものですが、そうした霞が関の論理を破ってまで公表を延期したのは、韓国に相当な配慮があったということでしょう。延期と簡単に言いますが、教科書出版社側からすると大変なことです。検定に合格して初めて印刷が可能になり、まずは『見本』を一万四千冊刷って全国の教育委員会や私立学校などに送ります。検定結果発表が遅れば、採択する側の検証期間がそれだけ短くなるのですから、教育現場に与える影響は小さくありません」

と伝えたと、韓国メディアが報じたのだ。ところがこの報道について外務省は「事実無根」と否定するなど、事態は混乱している。

安所長本人に話を聞いた。

「十七日は、昼食をともにしながら、七名で二時間程話をしました。最初は山本課長側も、『河野談話を通じてすでに謝罪もしたし、補償も終わっており、解決済みだ』などという原則論に終始して、重苦しい雰囲気でした。そのうちに、日本のプロ野球の話やお互いの家庭の話などもして、少し和やかになった」

その後、日韓の交流の必要性が話し合われたという。

「私が、『非公開の形で、安倍夫人を招待したいのですが、どうですか?』と尋ねたんです。山本課長は『良いお考えだが、自分たちは権限がない。招待状を送ってくれば、お伝えはする』というようなお返事でした。先日、日本にいる知り合いのNPO活動家にメールで安倍夫人への招待状を送りました。それを日本語に翻訳し、然るべきルートで届

けてほしいとお願ひしてあります。五月三日に、『孝の宴』という、おばあさんたちを慰労する交流行事があるので、そこにぜひご招待したいと書きました(一同前)

その背景を、大手紙の韓国特派員が解説する。

「韓国の主要紙は、昭恵夫人の韓国好きを広く報じています。韓流ドラマや韓国料理が好きとか『日韓交流おまつり』に参加したこと

も知られている。そのため『極右の安倍の行動を、韓国に理解のある夫人が正しくくれるんじゃないか』というムードがあるのです」

その昭恵夫人は、困惑気味にこう語る。

「五月三日というと、私は主人と一緒に外遊でヨーロッパへ行っていますから、日程的にも無理ですね。そもそもその施設がどんなところかもよく分かりませんし、この微妙な時期に私がそのような場所に行くこと、またいろいろと問題も出てくるでしょうから……」

どうやら、韓国側の昭恵夫人の「強制連行」計画は不調に終わりそうだ。

そんな韓国に最近ある大國が、日本との歴史闘争で共闘しよう、とばかりに急接近している。中国だ。

今年一月には伊藤博文を暗殺したテロリスト、安重根の記念館が黒竜江省のハルビン駅内に開館した。

昨年六月、朴大統領が訪中時に習近平国家主席に要

「河野談話」を無意味化する

日米韓首脳会談に先立ってハグで行われた中韓首脳会談では、習主席が、

「記念館建設を私が指示した」と明かし、朴大統領が「友好関係の象徴になる」と応じた一幕もあった。さらに、中韓のスターが共演

しての安重根を主役とした映画製作も計画されている。監督は、〇八年北京五輪開会式の演出も手がけた、チャン・イーモウ氏

だ。産経新聞中国総局の矢板明夫記者はこう語る。

「アメリカは日韓を近づけようとしている。それに中国は焦っています。政府寄りのチャン監督に映画を作らせるのもその一環です。

請したのは安の「石碑」だった。だが、日清戦争百二十周年となる今年、大々的な反日キャンペーンを目論む中国が、「日清戦争を發動した」(記念館の説明パネル)伊藤博文を殺した安重根の「記念館」にまで規模を拡大、急ピッチで今年一月に完成させたのだ。

「中国がこれだけ反日をやっているんだから、韓国ももっと頑張れ」と煽り、朴大統領を突き上げて日韓を

離間させる戦略なのです」

国際ジャーナリストの春名幹男氏もこう指摘する。

「朴大統領の外交姿勢は稚拙です。中国に対し、米國を中心として日米同盟、米韓同盟を機能させ、日米韓の防衛戦線を固めなければならぬ」という現実を認識し

ているのか疑問です。一方の中国は安重根の話題の使いぶりを見ても、韓国の取り込み方が非常にうまい」

韓国政府関係者からも、こう危惧する声がある。「安重根記念館に関する発

言も、習主席から突然冒頭で話題を振られて応じただけなのですが、結果、中国による韓日分断工作にまなまハメられた。習主席の反日に巻き込まれれば、中国や北朝鮮を喜ばせるだけだと懸念する人間も韓国政府内には多いんです」

先月末、ドイツを訪問した習主席は講演で、「南京で日本は三十万人以上を虐殺した」などと妄言を展開、

日本を名指しで批判している。さらに、韓国での元徴用工らによる日本企業提訴に続き、中国でも、戦時中に強制連行されたという元労働者や遺族らが日本企業を訴える動きが相次いでいる。日本政府首脳が語る。

「中国による韓国引き込みは、益々加速している。日本企業提訴でも、中国側は、韓国で同様の裁判を起こした原告を招待して話を聞くなどの連携を模索している」

ある韓国企業幹部によれば、中国に招待されると、わざわざ「ここは日本には絶対に見せない」などと断りながら、様々な施設を案内してくれるという。

「日本政府としては、今までの方針をぶれずに貫き、日本の正当性を国際社会に広くアピールし続けるしかない。河野談話の見直しは考えないが、作成過程の検証はする。韓国はまともな常識が通じる国ではないが、今あえて検証するのは、日本がああ時点で、いかに韓国側に善意を持って配慮したかを確認するためだ」(同前)

実は三者会談当日、安倍内閣は「来年が戦後七十年であることも念頭に置いて、二十一世紀にふさわしい未来志向の談話を発表したい」と閣議決定している。政治部記者はその意図をこう読み解く。

「『河野談話の見直しは考えていない』と明言しましたが、談話見直しは安倍首相の長年の信念。そこで、来年の『安倍談話』の文言を工夫し、それが浸透すれば河野談話が事実上無意味化するような表現によって、河野談話を上書きしようとしているのです」

安倍首相は果たして信念を貫けるのか。

査担当

が全面自供!

方法は全然ダメです

「ナナムの家」前の不気味な像

過激な抗議は止まらない

「この十九人の証言も、今思えば、本当に事実かどうか自信がありません……」

韓国ソウル。私の目の前で、その学者はため息をつきながらそう話した――。

ようやく実現した日米韓の首脳会談で、安倍晋三首相と朴槿恵大統領は握手を交わしたが、会談では歴史問題に関する言及はなく、肝心の慰安婦問題は棚上げ状態のままで。

「現在、慰安婦問題が韓日間の外交懸案になっている以上、その解決展望がない限り、外交関係の改善は難しいだろうと思います」

そう話すのは韓国経済史の第一人者であるソウル大学名誉教授の安秉直氏だ。今年一月、私は韓国に飛び、ソウルに安氏を訪ね、五時間にわたるインタビューを行った。

彼こそ九〇年代初頭、韓国で慰安婦の実態調査を行った最初の研究者である。これにこじれた慰安婦問題の「原点」といえるこの聞き取り調査は「挺対協（韓国挺身隊問題対策協議会）」と共同で行われた。

二年がかりで行われた聞き取り調査の結果を、安氏と挺対協は慰安婦の証言集としてまとめ、出版した（日本語版「証言 強制連行された朝鮮人軍慰安婦たち」は九三年に明石書店より刊行・左頁写真）。

本書には慰安婦十九人の証言が収録されているが、これらの証言について、安氏は同書の巻頭「調査に参加して」にこう綴っている。

「河野談話はおかしい」

そんな「バイブル」を書いた当の安氏が、今になって冒頭のように十九人の慰安婦の証言の信憑性について、実質的な「調査失敗」を認めたのである。

この発言の意味は重い。なぜならいま問題視されている河野談話は、安氏らが調査した慰安婦の中でも証言が曖昧だとして切り捨てられた面々の証言をベースに作成されたものだと思われるからである。安氏もこ

「私たちが調査を終えた十九人の証言は、私たちが自信を持って世の中に送り出すものである」

太鼓判を押された同書は、その後、反日活動家たちにとって日本を貶めるための「バイブル」として、この二十年間存在し続けた。この本に収められた慰安婦の証言は様々な形で紹介され、「反日プロパガンダ」に利用されてきた。

う話す。

「河野談話が、ただ元朝鮮人日本軍慰安婦からの聞き取り調査だけに基づいて作られたとすれば、それ自体がおかしいのです」

ストレートに解釈すれば「信憑性に欠ける聞き取り調査をもとに発表された河野談話はおかしい」ということである。安氏ほど慰安婦の聞き取り調査の難しさ、慰安婦の作り上げる虚構の実態を知悉する人間は

こじれた慰安婦問題の「原点」といえる九三年の韓国側調査報告。その当事者であるソウル大学・安秉直教授が、五時間にわたる現地

現地直撃5時間

慰安婦「調

韓国」人教授

ソウル大学
名誉教授
安秉直

「当時の調査

いない。その安氏はなぜ自らの調査結果を翻したのか。

じつは、安氏は調査の後、明確に挺対協との活動から一線を画し、独自の慰安婦研究に取り組んでいる。安氏が挺対協と袂を分かった理由とは何か。その「闇」にこそ、この問題を解く重要なカギが隠されていた。

インタビューのはじめ、安氏は言葉を濁し、明確な回答を避けていたが、取材が長時間に及ぶ中で徐々にその本心を吐露し始めた。彼が言明したのは、自らの調査の否定と、韓国政府の姿勢に真っ向から対峙する見解だったのである。

*

——安教授はなぜ慰安婦調査に携わったのですか？
「私の専門は経済学で、中でも植民地経済史が中心です。ですから対象が異なるとはいえ、同時期の慰安婦

証言
強制連行された
朝鮮人軍慰安婦たち

「この人、今になって思えば間違いです」と強い口調でページの一部を指さした。「勤労挺身隊から慰安婦に——姜徳景」と題され

反日の「バイブル」だった

直撃取材の末に、ついに自らの誤りを認めた。なぜ虚説は広まったのか。気鋭のジャーナリストの丹念な取材により真相が明かされる！

像の実態がどんなものであったか知りたいたって調査活動をはじめました。単純な動機です」

——実際には何人の慰安婦から聞き取り調査をしたのですか？
「この本にのっている女性

の十九人はすべて会いまし

た。彼女たち以外にも二倍くらいの女性を調査しましたが、証言の前後が矛盾していたり、資料に照らし合わせてたら合わないところが多々出てきたので、そういう人は全部はずしました」

「挺対協には近づきたくない」

——どういうところが矛盾なのですか？
「一人一人違いますから、まとめて説明できませんが、でもちょっと聞いてみたら、そんなことありえないというのをしゃべっていました。問題は私が証言調査に携わった際、慰安婦経験(亮春)はあるけど軍慰安婦ではないということが、何人か判明したことです」

——そういつて安氏は同書を手にとり目次を眺めながら「この人、今になって思えば間違いです」と強い口調でページの一部を指さした。「勤労挺身隊から慰安婦に——姜徳景」と題され

本書の中には、慰安婦たちのショッキングな証言が

ソウル日本大使館前の慰安婦像



数多く出てくる。日本兵が刀を抜いて慰安婦を脅し、関係を迫ったり、慰安所の経営者から電気拷問を受けたり、日本兵の求めを拒否して刀で股を刺されたり。飲まず食わずで一日に何十人もの相手をさせられ、衰弱死した慰安婦が山に打ち捨てられるという話まである。死体は草の葉で覆われるだけだったという。

こうした悲惨な物語は、ソウルの日本大使館前で慰安婦たちが行う過激な「水曜日デモ」や「ナムムの家」(元慰安婦が共同生活を行うと同時に慰安婦歴史館も併設)などで、今でも慰安

婦自らが声高に叫んでいる。例えば、ナムムの家に入館すると最初に慰安婦の証言ビデオを見せられるが、見終えた時には日本人として生まれたことが呪わしいほどの脱力感に襲われる人も中にはいるだろう。これら証言の信憑性を安氏に問うた。

「ありえないことを喋っている……(苦笑)。最初に聞き取り調査をした際、日本軍を悪く言う慰安婦は、実は一人としていません

「慰安婦を利用している」

言うまでもないが、慰安

婦の支援団体である挺対協は現在、日本政府に対して強硬な抗議活動を行っている。水曜日デモをはじめ、ソウル日本大使館前の慰安婦像設置。また、米国各地に慰安婦像を設置している韓国人口ピストと連携して、国連などにおいて欧米諸国の政府機関の要人の前で、慰安婦と称する女性たちに一方的な捏造証言をさせたりしている。いわば韓国における民間の「反日司

した。むしろ日本への憧れの気持ちを感じた」

——なぜそういった当初の証言が消され、日本軍を糾弾するかたちで過激な表現に変容していったのでしょうか。日本軍を悪しげにけなせばけなすほど挺対協のような活動家が「よく言った!」と慰安婦を褒め、盛り上がるから? 「そういうところもありますね……。実を言えば、私はもう挺対協には近づきたくないのです」

令塔なのだ。

——最初に従軍慰安婦だとか名乗りをあげた金学順さんの証言も肝心の部分でたびたび変遷しています。彼女達の証言は、一体どこまで信憑性があるのですか。

「難しい(首を左右に振りながら)。それは本当に難しい。私は一、二回、いやたとえ十回会えたとしても、短期間に接触した女性の人生の全貌、その事実を把握するなんてことはできません。ましてや慰安婦の場合

は……。

今になって当時の調査方

法は、反省してみますと、全然ダメです。理想を言えば、慰安婦問題が社会的に大きな問題となる前に、慰安婦たちと何年か一緒に生活しながら調査する、そんな報告書なら私は信頼できると思います。人間として付き合うんだから。だが、(二人当たり)一カ月か二カ月くらいの調査では何が事実か、解りません。でもそれはなかなか出来ない。(慰安婦たちは)挺対協と一緒にワワーやっているうちに精神的に汚れてしまったんでしょう。

以降、どんどん好きな事ばかりしゃべるようになってしまった。その結果、何が何だか解らなくなって!」

——その流れで、慰安婦たちが海外にまで遠征して一方的な証言をして回っているのでしょうか。実際のところ、証言者たちは静かに余生を送りたいのでは?

「さあ……どうでしょうか」——それでも慰安婦が表に出てくるのはなぜでしょう。「それは様々な団体が慰安

婦経験者は可哀想だといって経済的に支えていることにも原因があります。運動家はそうして慰安婦たちを利用している側面があるかもしれません」

安氏が指している団体のひとつが、前述のナムムの家である。過去には米国での従軍慰安婦対日非難決議の旗振り役だったマイク・ホンダ米下院議員や、慰安婦像設置を決めたロサンゼルス・グレンデール市の前市長クインテロ氏などもここを訪問している。そこに今度は安倍昭恵首相夫人を招待したいと言いつ出したのだから、開いた口がふさがらない。

——本の中にも出てくる慰安婦たちが主張している強制連行について、今ではどう考えますか。

「それはあり得ません。動物狩りのような、慰安婦狩りの秩序が乱れて暴動が起ったはず。日本も植民地で権力を維持するために(統治に)必死でしたから下手なことはできなかったでしょう。ですから強制連行

を主張する挺対協に対し、私は『君たちはこんなことを主張したら、後で困るからやめなさい』と助言したのです。日本軍が無理矢理朝鮮人女性を強制連行したという言説には、最初から私は反対していました。ただ、日本軍慰安婦の動員が戦時動員体制の一環として行われたことは間違いないと思います。広い意味での「強制動員」はあったと……」

更に安氏は挺対協との関わりについて、また大きなため息をつきながらこう述べた。

「実は……戦前のみならず、当時（九〇年代）、韓国には売春婦がたくさんいたのです。ですから私は最初、彼ら（挺対協）の目的は、戦前の慰安婦問題だけでなく、現時点で韓国女性が（これ以上）売春婦にならないようにと、何か手立てはないものかという目的で研究をはじめたと思っていたのです。」

ところが彼らは、日本の帝国主義の犠牲者（「慰安婦」という枠組みでしか発信せず、慰安婦問題はいっ

のまにか反日運動と化した。それだけの目的では、私はこの人たちと一緒に働くことはできないと思いました」つまり不本意だった安氏

“性的奴隷状態”？

だが、そのヒステリックな抗議活動の結果、従軍慰安婦は「性奴隷（*sex slave*）」として国連で認定され、国連人権委員会に提出された九六年の「女性への暴力に関する特別報告書（*タラスワミ文書*）」に明記された。

当時、一方的に日本を糾弾したタラスワミ文書に対して、日本政府も「極めて不当」「歴史の歪曲に等しい」と批判しようとしたという。幻の反論文書「の存在を、四月一日付の産経新聞が報じている。だが、日本政府はこれをすぐに撤回したという。」

——安教授は「性奴隷」という表現についてはどう思われますか。元慰安婦の手記を読んでいると、貯金をしたり、ダイヤを買ったり、日本軍兵士とピクニックや宴会を楽しみ、恋愛して求婚されたりといった実生活が綴られています。これでも性奴隷という表現は適切なのでしょうか？

の調査報告は、その後、挺対協によって都合良く歪曲され、さらなる捏造証言で膨張し、世界に広められたのである。

「性奴隷、奴隷制度といった言葉は、手錠、足枷をかけて強制連行したようなイメージが浮かびますが、それはありません。とはいえ、慰安婦達には、基本的な人間としての人権がなかったと思います」

——とは言っても、韓国は「日本軍はアジアの女性二十万人を性奴隷にした」というフレーズを使い、もはや *Sex Slave* は国際社会に定着しつつあります。しかし、かつて私が欧米人を取材した際、「貯金をしていた慰安婦もいた」と説明すると彼らは目を白黒させ、「預金通帳を持った奴隷!？」と笑われました。彼

らは実態を知らないのです。「たしかに……欧米列強の植民地政策と日本の植民地政策はまったく違うものだった。とはいえ、慰安婦たちが醜業婦として蔑視されていたのも事実です。私が発見した、慰安所に勤めた男性職員の記事から推測するに、慰安婦は就業の許可は容易に下りたものの、廃業の許可は前借金を返済したのちも容易に下りなかった。そういった意味では、性的奴隷状態」に置かれていたとも言えます……」

だが、この解釈を敷衍すれば、世界中の売春婦たちも *Sex Slave* ということになってしまう。インタビューに対し、安氏は自分の調査の欠陥や至らなさについて真摯に語ってくれた。しかし、性奴隷という表現については申し訳程度のエクスキューズを付言するしかないのは、彼が韓国で暮らしているからに他ならないだろう。このときの安氏の苦しさな表情がすべてを物語っているように思えた。

反日無罪の国柄である。

〇二年に「親日派のための弁明」（草思社）という本を上梓した金完燮氏は、日本の植民地統治を美化したというだけで裁判所から罰金刑を命じられたり、一般人からは暴行を受けたりもした。安氏自身も以前、韓国のテレビ番組に出演した際、「日本軍による慰安婦狩りのようなことはなかった」と発言しただけで猛バッシングを受けている。安氏について、知日派として知られる韓国政府高官ですら、筆者の取材に「彼は親日派ですから学者としてはあまり評価されていない」と平然と言いつつ、取材のたびに私は韓国社会の病理を垣間見せられた気がしたものだ。

だが、こうした韓国の「病理」にどこまでも付き合う義理はない。今回の安氏の告白により、さらに皆さんの調査に基づいた河野談話の根拠薄弱が一層明らかになったのも事実だ。いまこそ日本政府は慰安婦証言の「実態」を調査し、偽りの友好関係に終止符を打つべきではないか。